資　料　３

『北海道クロニクル』について

北海道の歴史に対する道民の理解や関心を深めることを目的とし、考古から現代までの長きに亘る北海道の歩みをわかりやすく叙述する。

叙述に当たっては、『新北海道史』以降の研究成果を反映させつつ、北海道史における特徴的な出来事を中心に記述する。

１　仕　様

上下巻の２冊構成　Ａ５判　縦書き

各巻４００頁程度　（１頁当たり 400 字原稿用紙 2.5 枚分程度）

２　章立て構成

章は時代区分、節は特徴的な歴史的出来事等を基本に構成（コラムも想定）。

上　巻（考古～近世）：１０章構成
下　巻（近代～現代）：　４章構成　〉　詳細は別紙参照

３　今後の編さんスケジュール予定

令和７年 10 月 16 日 11 月 12 日	企画編集部会　　章構成等確認 道史編さん委員会　　〃 ～　以降、執筆を開始　～
令和８年１０月	担当小部会で原稿取りまとめ ～　以降、小部会内で閲読・原稿調整　～
令和９年１月以降 令和９年４月以降	企画編集部会　　原稿審議 道史編さん委員会　　〃　（完成） 印刷契約
令和１０年３月頃	刊　行

４ 直近の担当小部会の検討状況

令和６年１２月６日　近現代小部会　（章構成等確認　他）

令和７年　２月６日　前近代小部会　（　　〃　　）

概説『北海道クロニクル』の構成（章立て）

上　巻　（考古～江戸時代頃）

■ **序**
- 第１節 北海道史のとらえかた
- 第２節 北海道史研究のあゆみ

■ **第１章**　【約30000～15000年前】
北海道島の地質・環境と人びと －人類の到達と、暮らしの背景－
- 第１節 北海道島のなりたち
- 第２節 北海道島の環境
- 第３節 旧石器時代の人びと－ 北海道島とその周辺 －

■ **第２章**　【約15000～2400年前】
定住生活のはじまりと開花する文化
- 第１節 縄文時代の人びと　1 草創期～早期
- 第２節 縄文時代の人びと　2 前期～中期
- 第３節 縄文時代の人びと　3 後期～晩期

■ **第３章**　【約2400年～5・6世紀】
北海道島の人びとの文化の「独自化」
- 第１節 続縄文文化前半期の人びと
- 第２節 続縄文文化後半期の人びと
- 第３節 続縄文文化末期の人びと

■ **第４章**　【6世紀後葉～12世紀】
北海道島の人びとと北東アジア・倭・日本
- 第１節 オホーツク文化の成立と展開
- 第２節 擦文文化の成立と展開
- 第３節 オホーツク文化・擦文文化のゆくえと暮らしの変容
- 第４節 東アジアの古代国家と北海道島

■ **第５章**　【13～15世紀】
北海道島の人びとと北東アジア・日本
- 第１節 暮らしの変化 －今日につながるアイヌ民族文化へ－
- 第２節 津軽安藤氏（安東氏）の盛衰と「夷島」
- 第３節 元・明とアイヌ民族
- 第４節 「道南十二館」の時代とコシャマインの戦い

■ **第６章**　【16～17世紀】
列島北方域と北東アジア・日本
- 第１節 「近世」の「蝦夷島」とその周辺
- 第２節 カムイトクイと「国内静謐」
- 第３節 松前藩の成立

■ **第７章**　【17～18世紀】
シャクシャインの戦いと松前藩
- 第１節 城下交易から商場交易へ
- 第２節 日本市場とのつながり
- 第３節 松前藩制の整備と城下の繁栄
- 第４節 シャクシャインの戦い

■ **第８章**　【19世紀前半】
クナシリ・メナシの戦いと幕府の直轄
- 第１節 ロシアの南進と千島アイヌ
- 第２節 クナシリ・メナシの戦い
- 第３節 山丹交易の管理と樺太アイヌ
- 第４節 蝦夷地幕領と「異国境」の認識
- 第５節 松前藩復領と場所請負制度の進展

■ **第９章**　【19世紀後半】
開国から維新へ
- 第１節 箱館開港と日露和親条約
- 第２節 箱館奉行の蝦夷地経営
- 第３節 幕末政治史と松前・箱館・蝦夷地
- 第４節 箱館戦争と榎本軍政

■ **第10章**　【16～19世紀】
蝦夷地と和人地、人々の暮らし
- 第１節 アイヌと和人、弁別と呼称の歴史
- 第２節 出土資料・物質文化からみた「近世」
- 第３節 アイヌ民族のヤウンモシリ／松前蝦夷地
- 第４節 和人民衆の松前蝦夷地
- 第５節 ジェンダーとひとの一生

下　巻　（明治時代～現代（2000 年頃））

■ **序**

■ **第１章**　【19世紀～1890年頃】
開拓使・三県時代
- 第１節 北海道開拓政策の模索
- 第２節 開拓政策の展開
- 第３節 北海道での殖産興業政策
- 第４節 教育の開始
- 第５節 集治監の設置と囚人労働
- 第６節 開拓のなかの生活・女性・医療
- 第７節 開拓使と公娼制度（遊廓）の確立
- 第８節 北海道が近代国家に組み込まれる時代

■ **第２章**　【1886～1918年】
北海道庁時代前期
- 第１節 内国植民地北海道
- 第２節 植民地開発体制の確立と拓殖事業
- 第３節 北海道庁時代の土地処分
- 第４節 北へ向かう人々 ― 北海道移民の実像 ―
- 第５節 産業の発展
- 第６節 交通の発達
- 第７節 道内の地域的発展の諸相
- 第８節 各地方都市の発展
- 第９節 社会問題の形成と労働運動の展開
- 第10節 北の軍事体制確立
- 第11節 植民地にふさわしい教育
- 第12節 開拓移民の暮らしと祈り
- 第13節 「移民」から「道民」へ－「開道五十年」を迎えた北海道－
- 第14節 開発が進行し移住者が激増する時代

■ **第３章**　【1920年頃～1945年頃】
第一次大戦終了～敗戦
- 第１節 第一次大戦後の北海道
- 第２節 資本の独占化と産業の動向
- 第３節 労働及び社会生活
- 第４節 教育・文化の動向
- 第５節 満州事変の勃発と総力戦体制への準備
- 第６節 戦時体制への傾斜と産業
- 第７節 労働及び社会生活への圧力
- 第８節 アジア・太平洋戦争下の北海道
- 第９節 戦時統制の強化と産業
- 第10節 戦時下の労働及び社会生活
- 第11節 戦時下の教育・文化と道民生活
- 第12節 敗戦と北海道
- 第13節 現代へと向かう社会のなかで自分たちの歩みを見つめなおす時代

■ **第４章**　【1945～2000年頃】
（仮）現代の北海道

※　基本、近代時期の構成を準用して節立て。
　北海道現代史通史編の関係委員から意見等を取り入れてながら章立てを検討。

※　近代（１～３章）・現代（４章）のページ割合
　近代：２４０ページ～２８０ページ
　現代：１６０ページ～１２０ページ

※　章節タイトル等は今後の編さん過程において調整する場合あり。